

まちづくり専門家プロフィール

ふりがな	たかはし さだお	
氏名	高橋 定男	
区分	アドバイザー	コンサルタント
専門分野又は得意とする分野 1. 建設コンサルタント（都市及び地方計画） <ul style="list-style-type: none"> ・大規模住宅地，流通・業務地の開発，公園・緑地，環境アセス等の業務 ・公共施設を建設する際の都市計画手続き ・土地区画整理事業 ※特に公園・緑地の設計（基本構想，基本計画，実施設計，施工管理，工事発注，事業管理，各種許認可）を得意としている。 2. まちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・子ども版まちづくりの企画・運営（夢プラン若林 21） 		
主な実績 		
資格等 <ul style="list-style-type: none"> ・ R C C M（造園部門，都市計画及び地方計画部門） ・ 技術士（建設部門：都市及び地方計画／公園・緑地） ・ 技術士（総合技術監理部門：建設／都市及び地方計画） 		
まちづくりに関する活動履歴 H6～7年度 コミュニティフォーラム 21（若林区まちづくり倶楽部 2 期生 副会長） H8～10年度 夢プラン若林(子ども版まちづくり) 指導者 H12年度 若林区緑の名所選定委員，若林区冒険白書(子ども版まちづくり)企画委員 H13～H17年度 夢プラン若林 21 実行委員長(子ども版まちづくり) H14年度～ 若林区ふるさと区民祭り実行委員		

まちづくりについて考えること

平成6年度から仙台市のまちづくりに関心を持ち、最初に市民参加（公募）したのが若林区コミュニティーフォーラム21（2年間）であった。専門家の集まりというよりは異業種・異分野の集団であり、まちづくりの考え方も多種多様にあると感じた。その後10年間行ったのが「夢プラン若林21」の活動である。その地域活動を通して感じたことを以下に述べる。

昨今のまちづくりは海外からの受け売りが多く、日本古来の伝統、慣習を取り入れるという配慮に欠けているように思う。私はまちづくりに関しての知識はあるが、その進め方の良し悪しは分からない。長年試行錯誤を重ねながら実行してきた。しかし、何を行うかの本質は皆同じ気持ちである。それは郷土愛であり、私たちが長年住んできた地元が変貌する姿に驚かされ、今昔に思いをさせ、後世に残すべき原風景をあらためてイメージし、子どもたちに伝えていきたい。何もしないではいけないという気持ちの高まりが、本活動を継続させたエネルギーといえる。

まちづくり＝イベント活動として捉えられがちではあるが、イベントはその最終ステージであり、それまでのプロセスが非常に大事である。若林区周辺では昔、子供会、農家の青年会、集落での共同農作業、お祭りなど共同で何かを行うということが自然に行われており、それが日本流まちづくりといえる原型であったと感じる。それを復活するのが現代のまちづくりのようなもので、だれもが参加して楽しい活動であることは、各種の事例からも判断できる。

欧米ではまちづくり活動が盛んに進んでいるが、無理に行っているのではなく、一つの行事として捉えられているようだ。それがいつの間にか、まちづくりそのものが格調高いものとして専門家や有識者が先導するようになり、プロ化されてきたのも現実である。

まちづくりの原点はそのようなものではなく、地域に住む人々が地域の良さ、住民との触れ合いを通して一生をそこに住み続ける中で生きがいの持てるふるさとを創出することにある。それは快適で便利な都市を整備することだけではなく、地域コミュニケーション（人の絆）を通して、人々の日常生活が毎日楽しく弾んだものになっていくことにある。

そのためには、これに加わる地元スタッフによる組織を確立させなければならないだろう。地域には、埋もれた優秀な人材がたくさんいるはずだ。その人材を発掘するのも私たち「街づくり専門家」の使命であり、最終的にはこうしたスタッフとともに人々の笑い声や楽しい会話が身近に聞こえてくる魅力あるまちづくりを、この時代に築き上げたい。まずは最初のスタートとして多くの市民に街づくりに興味を持って参加して頂き「市民モラル」を高めて欲しい。